

	経営学部経営学科
DP	<p>経営学科は、本学立学の精神と、本学科人材養成目的「社会の諸問題に対して経営者的な視点から問題を把握し対処する能力、刻々と変化する会計とキャッシュフローに対応できる能力、マーケティング分野の今を多角的にとらえ実社会に即応できる能力を兼ね備えた人材の養成」にもとづき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（経営学）の学位を授与します。</p> <p>①幅広い教養と語学力を身につけ、環境・地域・福祉・文化などの視点から現代社会の変化を読み解き、公正な立場で、新しい社会を切り開く能力を習得している。</p> <p>②組織経営に関する基本的な理論・手法に加え、グローバル化・情報化の進展に対応した視点から経済・社会の変化を分析し、その有り方を構想できる能力を習得している。</p> <p>③現代社会の変化に柔軟に対応しながら、社会に貢献し続けていくために、生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力と協働する能力を身につけている。</p>
CP	<p>経営学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門と専門教育部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得が義務付けられ、経営学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。</p> <p>①経営学科の教養教育部門は、「基軸科目」、「人間を考える」、「社会に生きる」、「自然と生きる」、「情報教育科目」、「健康・スポーツ科学」、「言語コミュニケーション」の7部門から構成され、これらの科目を幅広く履修することにより、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力など、基本的技能を養うことができるようにする。</p> <p>②専門教育部門は経営学の学識を深めるための部門である。部門全体はさらに専門基礎、マネジメント、マーケティング、会計・ファイナンス、データサイエンス・情報、経済学・法学、実務・実習、ゼミナールの諸部門に分けられ、それらの部門内の諸科目は、体系性と順次性を踏まえて開講されている。特に、マネジメント、マーケティング、会計・ファイナンスの各部門の専門科目は、主たる専攻領域として選択したマネジメント、マーケティング、会計・ファイナンスの各コースに応じて重点を変え、系統的に履修することが求められる。さらに、国際フィールドワークなど実社会との接点を重視する科目も受講することにより、スペシャリストとしての社会人・経済人に不可欠な高度な専門性と幅広い柔軟な知識を養うことができるようにする。</p> <p>③経営学部の教育上の特徴として、初年次の基礎ゼミナール、専門ゼミナール、フィールドワークといった少人数教育の場を数多く設けている。これは「一人一人の個性が尊重される教育を実現する」という意図によるものである。こうした少人数教育の場において、自主的かつ持続的な探究心を育むとともに、他者との議論を通じて、相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。</p> <p>④経営学科の学修成果評価基準にもとづいて、厳格な成績評価と単位認定を行い、また、ゼミ担当教員や教務担当教員が、学修行動調査やGPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。専門ゼミナールにおける講評や表彰による評価を通じて、主体的に課題と取り組む姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。</p>
AP	<p>経営学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。</p> <p>①高校までの学習による基礎学力を身につけている。</p> <p>②経営学科での学修を戦略・政策の立案に活かすことに興味を持っている。</p> <p>③チャレンジ精神にあふれ、感受性と積極性を持ち、生涯にわたって学び続ける意欲がある。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査、学生アンケート、TOEIC等の外部テスト、資格の取得状況等から評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>また、卒業研究では、卒業論文等の成果から、学修成果の達成状況を評価する。</p>